



光さんさん

吉原小学校だより

吉原小歴史特集号①

平成28年7月15日発行

校長 池田 直哉

在籍数 50名

夢をもち 共に学び
きたえる

心豊かな児童の育成

吉原小学校の歴史

明治・大正時代

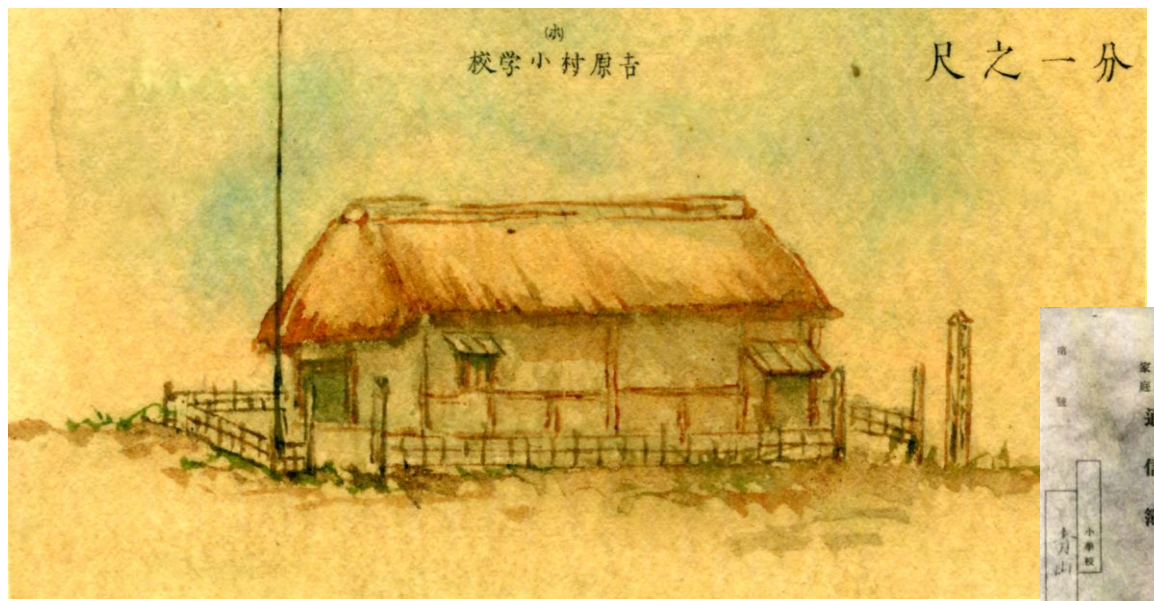
西暦	元号	記事
1875	明治 8	大字吉原医王寺を借家し教授する
1879	明治 12	9.8 現在地に移転 吉原村吉原小学校 2教室新築
1889	明治 22	朝日第二尋常小学校と改称 吉原村が合併し朝日村誕生 3・4年児童数90名 2学級編成
	明治 29	3力年の補習科を設置
1998	明治 31	寄付金50円により 道路側板塀 を造設する
	明治 34	朝日尋常高等小学校(実穀小)設置により、補習科の児童は高等科へ通学
1900	明治 36	校舎7坪を増築
1904	明治 37	宮本マサの地を借用、 運動場を拡張
1908	明治 41	義務教育6力年制開始 校舎狭きため5・6年児を朝日尋常小学校(実穀小)に収容 →現在の道路に面し、萱葺き屋根の仕切りのないぶっ通しの教室で、長屋風の建物 →児童数80名(4年生まで)
1911	明治 44	校舎 12 間を ガラス窓 にする
1912	明治 45	5学年を収容 →萱葺き屋根1棟だけの校舎は、1から6年まで一緒に、がやがやと賑やかだった
1913	大正 2	6年生も収容 全児童127名3学級編成
1915	大正 4	40坪の 校舎を増築落成
1916	大正 5	板塀20間 を改造、3坪の便所建築 児童数184名 4学級編成
1917	大正 6	10.1 暴風雨のため校舎1棟倒壊
1918	大正 7	東側道路よりに45坪の校舎を 新築
1926	大正 15	校舎1棟、2教室増築 校地拡張 児童数221名 6学級



○ 当時は朝日第二尋常小学校と称し、校舎は茅葺き屋根の仕切りのないぶっ通しの教室で、いわば長屋風の建物であった。
学校の一大行事に運動会があった。校庭が狭いので、現在の大砂地区が未開発の頃、あたり一体は宮地の広い芝生であったため、そこを会場に日の丸の旗を高く掲げ、その下で楽しい一日を過ごした。
(篠崎暉一郎氏 大正3年卒)

○ 大正4年(1915年)新校舎が増築され、5・6年生はそこで学ぶこととなった。6年生になった年の秋、10時頃より風が強くなり、夜半頃には大暴風雨となった。天気予報を知らせるテレビやラジオもなく、誰もが恐怖の念にとらわれ、それは想像に余りあるものでした。翌朝、風もやみ登校してみると私ども上級生の学んでいた校舎が全壊していた。その時の驚きは一通りではありません。唱歌を武田巳代治先生のバイオリンで歌ったことが、何よりも強く記憶に残っている。(大竹 猛 大正7年卒 飯塚倉吉氏 大正9年卒)

台風のため校舎が倒壊してしまい、下吉原の青山仁兵衛さんの家の建物を借りて勉強したことがありました。校長先生は藤田馬吉先生といて、いつも黒の詰め襟洋服で、黒い足袋をはき、こま下駄姿でした。奥さんと二人で、学校の近くに住んでおられました。(糸賀良江氏 大正10年卒)

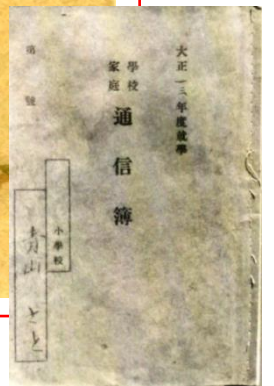


明治時代の吉原村の地図と吉原小学校

明治14年製作のフランス式迅速測図の余白には、主な施設のイラスト(学校や寺社、樹木など)が記されていました。この地図は、茨城県では、主に土浦や筑波方面で製作され、現在は、国土地理院に保管されています。当時がわかる貴重な資料となっています。

通信簿

大正13年度入学生(青山さと氏)



大正13年度卒業生



大正15年度卒業生



昭和2年度卒業生

◎ 「さようなら吉原小 思い出がいっぱいミュージアム」(会議室)への資料(写真やエピソード等)やアイデアの提供をお願いします。

問い合わせ先 吉原小 池田 tel 889-0277